

# 学校だより

## 第1号

令和3年4月8日 発行

京都府立向日が丘支援学校

京都府長岡京市井ノ内朝日寺 11

Tel 075-951-8361 Fax 075-951-8362

<http://www.kyoto-be.ne.jp/mukougaoka-s/cms>



### 共生社会の形成に貢献する学校を目指します



ここ京都府長岡京市にも、再び春が巡ってきました。

昭和42年にこの地に開校した京都府立向日が丘支援学校は、令和3年度、開校55年目を迎えました。

小学部13名、中学部12名、高等部21名の新入生を迎え、今年度は、小学部54名、中学部45名、高等部75名、合計174名の児童生徒が本校で学ぶこととなります。

50年を越える本校の歴史の中で、高等部卒業生は、1000名を遙かに超えています。卒業後の進路は様々であっても、「みなさん、この地域の中で元気に幸せな人生を送っておられるだろうか」と、そんなことをよく考えます。

昨年度は、全世界を新型コロナウイルスという予想もしなかった事態が覆い尽くし、人間の営みを大きく変容させました。それは、本校も例外ではなく、臨時休業からの再開後も、何よりも児童生徒の命と健康を守るための対策を徹底しながら、許される教育活動を模索してきました。そんな中、6月に30年以上前のある卒業生の保護者の方から「学校が困っておられるのでは」と、たくさんの手作りマスクの御寄付をいただきました。御礼のお電話の中で、「息子は、学校でつけていただいた力を使って、今、元気に暮らしています。」と話していただきました。辛いことも多かった年でしたが、心からありがたく思うとともに、50年以上この地に学校があることの意味と責任の大きさを強く感じました。

新しい学習指導要領が今年度は中学部で本格実施となります。



「学校で学んだことが、子どもたちの『生きる力』となって、明日に、そしてその先の人生につながって欲しい。これからの社会がそんなに変化しても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現して欲しい。そして、明るい未来を、ともに創っていききたい。」

これは文部科学省が、新しい学習指導要領に込めた「願い」です。そして、勿論、このことは、特別支援学校で学ぶ全ての子どもたちにも当てはまります。

本校で学ぶ多様な子どもたちが、一人一人の幸せを実現する「生きる力」を、授業をとおして身につけること、そしてその先にある全ての人が幸せに暮らすことができる共生社会の形成を目指して、京都府立向日が丘支援学校は、この地域とともに、また新しい一歩を踏み出します。



京都府立向日が丘支援学校 校長 平岡 克也

## 【 新 転 入 者 】

		〈前任校等〉
総括主事（小）	田中 裕美	第2向陽小
総括主事（中）	宮本 朋子	向日が丘支援
	荒川 裕子	丹波支援
	板井 香織	八幡支援
	門脇 侑里	南山城支援
	久保田 芽美	舞鶴支援
	齋藤 周	中丹支援
	細井 靖子	丹波支援
	安田 暢弥	南山城支援
	今江 壮磨	初任
	島田 亜希	初任
	高寺 将太	初任
	富澤 知夏	初任
	長谷川 菜友	初任
	湯川 正雄	
	古山 尚之	
	中村 亮太	府教委
	石井 智子	
	小野 芳子	
	河内屋和佳奈	
	川村 和人	
	品川 忍	
	鈴木 志廣	
	鶴田 滉介	
	野澤 幸治	
	藤井 聖香	
	前田 幸子	
	松田 丘子	
	松本 紘宜	
	赤松 弘揮	
	有坂 恒	
	米澤 佳代	
	谷 早苗	
	松本 恵理	
	吉村 吟子	
	富田 孝思朗	
	中村 智紀	
	高橋 功	
	堤 朋子	

## 【 転 出 者 】

		〈転任校等〉
総括主事（小）	木邑 一彰	長岡第八小
総括主事（中）	田渕 泰史	城陽支援
	岩谷 華奈	南山城支援
	榮元 健太	南山城支援
	金森 千枝	盲
	柴田 朋美	丹波支援
	鷹野 江里	長岡第七小
	日高 光彦	宇治中
	日比野佳苗	神足小
	山岡 佑希子	南山城
	後藤 訓子	洛東高
	小早川 理	盲

## 【 退 職 者 】

片岡 泰子	中森 愛斗
大嶋 博之	長津 朔太
夏川 久子	成川 眞祐
大木 典子	長谷川 治司
佐名木 直子	平柳 奈穂
上田 和美	福田 結衣
住田 珠江	森下 凧子
西村 佳志子	安西 悠樹
橋本 佳代子	矢野 美和子
山田 啓子	久貝 佳弘
石渡 玲緒	橋本 愛
上野 萌々子	井上 喜代一
奥澤 剛司	内野宮 麻理
窪田 常人	浅田 由紀子
時田 麻里	市川 明代